

岡山県井原市青野町における祝言の あいさつ

江端 義夫

○はじめに

1. 対象地の地理的環境：青野町は岡山県の西南に位置し、笠岡市の北方へ15kmほど入った、山間の農村集落である。井原市の中心街から約6km隔っている。南北に細長い地形で、坂が多い。家屋は概して、陽あたりの良い斜面に散在して構えられている。
2. 対象地の社会的経済的環境：青野町の部落は、井原市の中心部から見て北方へ、下・中・上の三部分の連なりから成る。中央の部落が農協や小学校のある繁華な所である。
3. 生業：現在の中核的な産業がブドウ栽培である。その前がタバコ、もっと前は養蚕であった。
4. 交通：井原市へ出る県道が整備されている。313号線は福山市へ出るのに便利である。したがって、青野町の若者は、井原市や福山市へ通勤する者が多い。農業は専ら年寄りの仕事となっている。
5. 人口：1991年1月31日現在、戸数が199世帯、人口が813人である。
6. 調査年月日：1991年2月19日、第1回め。
午後1時30分～3時30分。
1991年3月12日、第2回め。
午後3時5分～4時10分。
7. 方言話者：A. 三宅 隆二 大正7年11月8日生（73歳）
B. 三宅 厚 大正13年9月13日生（67歳）
C. 田原 軌 昭和4年9月14日生（62歳）
8. 調査場所：第1回めは、井原市教育センター。第2回めは、三宅隆二氏宅。
9. 調査方法：当該質問簿に基づく質問調査法によった。

I. 結納授受のあいさつ

1. 仲人が新婦の家に結納を持参した時、座敷で、その家の主人（新婦の父親）に向かって、どのようなあいさつをしますか。《表現特性や待遇品位の記述は不十分に留まった。》

- A Oゴソタビワ エレー ケッコーナ オハナシデー タイヘン オヌデ
 タイ ヒオ ムカエラレ オジャマ シマシタ。イグヒサシク ゴリョ
 ーテノ ゴハンエーオ オイフリシデー ホンジツノ コフ メデデー
 セキニ オジャマイタシマシタ。このたびは、たいへん結構なお話で、
 たいへんおめでたい日を迎えられ、お邪魔しました。幾久しく、ご両家
 のご繁栄をお祈りして、本日のこのめでたい席にお邪魔いたしました。
- C Oホンジツワ オヒガラ ヱー オヌデトーゴザイマス。イイフー ド
 ーフ イグヒサシク オオサメクダサイマセ。本日はお日柄も良く、お
 めでとうございます。結納を、どうぞ幾久しくお納めくださいませ。

2. その家の主人（新婦の父親）は、仲人に応えて、どのようなあいさつ
 をしますか。

- A Oキョーワ タイヘン オイツガシー トコロー ヱー オイデンサツ
 タ。イロイロト ナゴードサンニク ゴジンリョク イタダイデ タイ
 ヘン アリガトー ゴザイマシタ。今日はたいへんお忙しいところを、
 よくお出でなさいました。色々と、仲人様にはご尽力願いて、たいへん
 ありがとうございます。
- B Oゴエンロン トコロー タイヘン アリガトー ゴザイマシタ。ご遠
 路のところを、たいへんありがとうございます。
- C Oホンジツワ ゴグローサンデ ゴザイマス。本日はご苦労様でござい
 ます。

BとCの言い方は、随時に用いられる簡潔なものであり、定型とは言いがた
 いという。

3. その時の新婦のあいさつがあれば記してください。

A、B、C O新婦はお茶を持って出る程度で、何も言わない。

II. 嫁をもらう家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁をもらうことが決まった家の人に道で出会って、近所の人たちはど
 のようなお祝いのあいさつをしますか。

- A Oキキマス トコロニ ヱリマスレバ チカシカニ オヌデタガ アル
 ソーデ マコトニ オヌデトー ゴザイマス。聞きますところに依りま
 すれば、近々におめでたがあるそうで、誠におめでとうございます。
- C Oキキマスリャー オヌデタガ アルソーデ オヌデトー ゴザイマス。

聞きますと、おめでたがあるそうで、おめでとうございます。
結婚式が済むのは、穢褻になることを気遣い、うわさ話をなるべく避け、婉曲に言う。

2. 嫁をもらう家の方は、そのあいさつに応じて、どのようなあいさつをしますか。

A Oアリアトー ゴザイマス。コソゴトモ ヨロシク オネガイイタシマス。ありがとうございます。今後とも宜しく願ひいたします。

C Oマー モラウ コトン ナリマシタケー ヨロシユー オネガイシマス。まあ、貰うことになりましたので、宜しく願ひします。

Ⅲ. 嫁に出すことが決まった家の人へのお祝いのあいさつ

1. 嫁に出すことの決まった家の人に、近所の人たちはどのようなあいさつをしますか。

A Oキキマスリヤー オヌデタデヤソードスガ イー オハナシガ テキテ テッコードシタ。聞きますれば、おめでただそうですが、良いお話が出来て、結構でした。

B Oオキマリソ チッタソードス チー。お決まりになったそうですね。直截的に言わないのが礼儀であるが、結納が済んだ後ならば、対等の間柄では、次のように言う。

B Oイヨイヨ オダシソ チルトユー コトー キキマシタ。いよいよ、お出しになるということを知りました。

2. 嫁に出す家の方は、そのあいさつに応じて、どのようなあいさつをしますか。

A Oヨロシユー ドーゾ オネガエーイタシマス。宜しくどうぞ、願ひ致します。

Ⅳ. 結婚式当日のあいさつ

結婚式当日、結婚式に出席した人たちは（親戚以外）、どのようなあいさつをしますか。

1. 新郎の父親にどのようなあいさつをしますか。

A Oホソジツワ マコトニ テッコーナ オハナシガ テキマシテ オヌデトー ゴザイマス。ブエンリョニ ヨバレテ マイリマシタ。本日は

誠に結構なお話が出来まして、おめでとうございます。無遠慮に呼ばれて参りました。

B Oホンジツワ オヒカラ ヨー オヒキウケガ デキマスワデー オメデ下ー ゴザイマス。プエンリョニ マイリマシテ……。本日はお日柄良く、お引き受けが出来ますそうで、おめでとうございます。無遠慮に参りまして……。

AよりもBの方が、相手への気遣いの顕著なもの言となっている。

1-2. 父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

A Oタイヘン オイソガシー トコロー クリアーシテ ヨー オイデイターキマシタ。マー コンゴトモ ヒ下ツ 下ーゾ ヨロシク オネガイ イタシマス。たいへんお忙しいところを、繰り合わせて、よくお出で戴きました。まあ、今後とも、ひとつどうぞ宜しくお願い致します。

C Oモラウ コドン ナリマシタンデ 下ーゾ コンゴトモ ヨロシク オネガイ イタシマス。貰うことになりましたので、どうぞ今後とも宜しくお願い致します。

2. 新婦の父親にどのようなあいさつをしますか。

A Oコア タビラ ゴリョーエンガ ト下ノイマシテ マコトニ オメデトー ゴザイマス。スエナガク オシアースエニナラレマス コ下ー オイブリ イタシマス。このたびはご良縁が調いまして、誠にありがとうございます。末永くお幸せになられますことを、お祈りいたします。

2-2. 父親は、それに応えて、どのようなあいさつをしますか。

A Oタイヘン ツマラン モマー ツレテマイリマシタケード コノー ヒ下ツ ヨロシク オネガイイタシマス。たいへん詰まらないものを連れて参りましたけれど、このう、ひとつ宜しくお願い致します。

新郎の自宅で挙行される結婚式には、新婦の父親は出席しなかった。結婚式から披露宴に至る過程に新婦方の父親が同席するようになったのは、最近の新しいやり方であるらしい。(Bの言説)

V. 結婚式後、姑が新婦を連れて近所へあいさつに回る時のあいさつ

1. 結婚式後、姑が新婦を連れて、近所の家にあいさつをして回る時、姑はどのようなあいさつをしますか。

A〇コアタビ △△ノ オチコードニ ヨッテ ワカイ モノー モライ
マシタアデ 下ーゾ ヨロシク オネガイイタシマス。このたび△△の
お仲人によって、若い者を貰いましたので、どうぞ宜しくお願い致しま
す。

最近は、各戸を訪ねて挨拶をするのではなく、近所のご婦人に一同に寄り集
まってもらい、茶菓子と湯呑みを配った後、下座に控えた姑と嫁は、お辞儀
をして、次のように姑が口上を述べるとのことである。

A〇コアタビ △△ノ オチコードニ ヨッテ ワカイ モノー モライ
マシタアデ 下ーカ シトツ スエナガク ヨロシク オネガイシマス。
ホンジツワ オイソガシーノニ ヨー クリアーシテ オイデ イター
キマシテ アリガトー ゴザイマス。コレカラ オチャオ クマセマス
アデ 下ーゾ ヨロシク オネガイイタシマス。このたび△△のお仲人
に依って若い者を貰いましたので、どうかひとつ、末永く宜しく願ひ
します。本日はお忙しいのに、よく繰り合わせてお出で戴きまして、あ
りがとうございます。これから（嫁に）お茶を汲ませますので、どうぞ
宜しくお願い致します。

そして、嫁が満座の女衆にお茶を注いで回る。これがおひろめの挨拶である。
入念なやり方では、結婚式に呼ばなかった近所の主人を別に招いて、ねんご
ろな宴会を催すことがある。以前は、めでたい「伊勢音頭」を出して、宴を
終えたものだという。

2. そのあいさつに應えて、近所の人はどうのようなあいさつをしますか。

B〇ワザワザ ゴデーネーニ アリガトーゴザイマシタ。オカ下ア ヒロ
イアニ オイデ クダサイマシテ アリガトー ゴザイマシタ。マー
ヨロシユー オネガイ イタシマス。わざわざご丁寧にありがとうございました。
お門の広いのに、お出でくださいませ、ありがとうございました。
まあ、宜しくお願い致します。

「お門の広いのに」という定型が、懇切な心持を醸成している。一般的に
は、次のような言い方が多い。

A〇ホンジツワ マコ下ニ オヌデトー ゴザイマス。ヒ下ツ ヨソゴト
モニ ヨロシク オネガイ イタシマス。本日は誠におめでとうござい
ます。ひとつ、今後とともに、宜しくお願い致します。

VI. 嫁を迎えた家の人へのあいさつ

1. 10日ほど前に、長男(29歳)に嫁をもらった60歳台の父親へ、結婚式に招かれた50歳台の女性が、登下りの路上で、どのようなお祝いのあいさつをしますか。

A Oセンジツワ オヌデトー ゴザイマシタ。アノー オマネキ イターキマシテ マコトニ アリガトー ゴザイマシタ。先日は、おめでとうございます。あ、お招き戴きまして、誠にありがとうございました。

これは、正式なものの言いであるが、次のような言い方は、ざっくばらんな親しみの表明である。

C Oコネアター オヌデタエー セキニ ウチノ オトサンガ ゴチソーン チッテ オヌデトー ゴザイマシタ。この間は、おめでたい宴席に、うちの主人がご馳走になって、おめでとうございます。

2. 父親は、それに応じて、どのようなあいさつをしますか。

A Oヨー オイデテ イターキマシタ。マー コンゴトモニ ヒトツ ヨロシユー オネゲー イタシマス。よくお出で頂きました。まあ、今後ともに、ひとつ、宜しくお願い致します。

これよりも、もう少しだけたものの言いでは、

B Oオイワガジー トコロー スイマモンデシタ。お忙しいところを、すみませんでした。

のように言い、続けて贈答品へのお礼を述べたりするそうである。

VI. 結婚式後の仲人へのあいさつ

1. 結婚式後、仲人の所へ新郎新婦(あるいは両親)がお礼に行った時、どのようなあいさつをしますか。

A Oヒジヨーニ イー オハナシオ シテ イターキマシテ タイヘンウチジュー ヨロコンデ オリマス。マー コンゴトモ シトツ ヨロシク オネガイ イタシマス。非常に良いお話をしていただきまして、たいへん家中、喜んでおります。まあ今後とも宜しくお願い致します。たいへんは、親が仲人へお礼に行く。酒三升と餅と礼金を包んで持参する。新郎側が2割、新婦側が1割の負担となる。

仮りに、新郎新婦が仲人の所へお礼に行くことになれば、もの言いの定型はないので、

B Oオシエワン ナリマシテ アリガトー ゴザイマシタ。お世話になり

まして、ありがとうございました。
のようなものではないか、という。

2. 仲人は、それに応じて、どのようなあいさつをしますか。

A Oマゴ下ニ オヌデトー ゴザイマシタ。スエチガク ヨロシク オネ
ガイ イタシマス。誠にめでとうございました。末永く宜しくお願
い致します。

これは、いんぎんな言い方であり、両親の挨拶に応えたものである。ところが、新郎新婦が仲人の所へお礼の挨拶に来た時には、すでにその形式がアブノーマルであるために、特定の言い方が存しない。新婚旅行や、新生活についての話題が専らとなってしまうようだ。

Ⅵ. 嫁のはじめての里帰りのあいさつ

1. 嫁がはじめて里帰りする時、嫁ぎ先の親に、どのようなあいさつをしますか。

C O イッテ カエリマス。行って帰ります。

この程度の言い方しかない。とりたてた挨拶はしないのではないか。この頃は結婚後三日めに里帰りをするという習慣も、殆んど聞かない。

2. 両親は、それに応じて、どのようなあいさつをしますか。

C O コシレーテ ヨージンシテ イッテデー ヨ。準備して、用心をして行って来なさいよ。

特定化した言い方がないので、上のように臨機応変なもの言いとなる。

○おわりに

祝言のあいさつことばは、おおむね敬意が高く、あらたまった表現になっている。親しい間柄においても、くだけた声かけだけに終るのではなくて、折りめ正しい言い方が見られる。結婚式のやり方は、社会の変化に伴って、画一化されてきているが、祝言のあいさつには、まだ若干の特異な表現形式が留められてもいるようである。

[広島大学教育学部]